

氏 名	伊富貴 初 美
学位の種類	修 士 (看護学)
学位記番号	修 士 第 1 4 5 号
学位授与年月日	平成 2 4 年 3 月 9 日
学位論文題目	看護師と医師の協働に関する研究 - 日本語版尺度開発と特徴分析 -

論 文 内 容 要 旨

※整理番号	150	(ふりがな) 氏 名	い ぶ き はつ み 伊 富 貴 初 美
修士論文題目	看護師と医師の協働に関する研究 -日本語版尺度開発と特徴分析-		
<p>【目的】 医師と看護師の協働に対する態度を測定する尺度 (The Jefferson Scale of Attitudes toward Physician-Nurse Collaboration : 以下 JSAPNC) の日本語版を作成し、その信頼性・妥当性の検討、および看護師と医師の特徴分析を行うこととした。</p> <p>【方法】 翻訳ガイドラインに沿って JSAPNC 日本語版を作成し、看護師と医師を対象とした質問紙調査を行った。調査は滋賀県内に勤務する看護師、医師を対象とし、有効回答を得た看護師 955 名、医師 99 名を解析対象とした。調査項目は、JSAPNC 日本語版と外的基準である患者への共感的態度尺度日本語版とし、Cronbach の α 係数、Pearson の相関係数の算出、および因子分析を行い、JSAPNC 日本語版の信頼性と妥当性について分析を行った。また、看護師と医師のそれぞれの特徴について比較分析を行った。</p> <p>【結果】 作成した JSAPNC 日本語版のテスト-リテストにおいて $r=0.73$ ($p<0.01$) の有意な正の相関が認められ、安定性による信頼性が確認された。Cronbach の α 係数は 0.77 であり、内的整合性による高い信頼性が確認された。因子分析では、原版の基本的な要素との違いが認められ、日本独自の構成要素が確認された。JSAPNC 日本語版と患者への共感的態度尺度日本語版の下位尺度である【総体的な捉え方】との Pearson の相関係数は、看護師 $r=0.45$ ($p<0.01$)、医師 $r=0.41$ ($p<0.01$) であり有意な正の相関が認められた。また、【思いやりのあるケア】では、看護師 $r=0.31$ ($p<0.01$)、医師 $r=0.30$ ($p<0.01$) であり有意な正の相関が確認され、先行文献と同様の傾向を示したことから併存妥当性を有すると判断した。</p> <p>次に看護師と医師の協働に関する特徴において、看護師では、3~10 年未満の JSAPNC 日本語版総合得点が低く、経験 10 年以上の方の総合得点が有意に高く、年齢においても同様の変化が認められた。また、職位が高いものは総合得点が高く、協働に前向きであり、協働に前向きであることが患者への共感的態度に正の影響を及ぼしていた。一方、医師では、属性との関連は認められなかったが、看護師との協働に前向きであることと経験年数が患者への共感的態度に正の影響を及ぼしていたことが明らかになった。</p> <p>【考察】 本研究において、JSAPNC 日本語版の安定性と内的整合性による信頼性が示され、既存の外的基準との相関による併存妥当性が確認され、国際比較に有効と考える。しかし、因子分析において日本独自の構成要素が確認されたことは、他国との文化や医療システムの違いによる影響があったと考える。</p> <p>看護師の経験年数と医師との協働の関係では、3~10 年未満の時期は、医師とのコミュニケーションが増え、キャリア形成からもまだ葛藤の時期にあり、医師と対立の関係になりやすいことが推測される。看護師も医師も協働に前向きであることが患者への共感的態度に影響することから、医師とのよりよい専門職間の連携を築くことが患者満足につながることを示された。</p> <p>【総括】 JSAPNC 日本語版は、安定性と内的整合性による信頼性と併存妥当性が確認でき、日本において看護師と医師の協働に対する態度を評価する尺度として活用できることが示された。また、協働に対する特徴では、看護師は、専門職として経験や知識を積んでいる方が協働に前向きであり、両者ともに協働に前向きであることが患者への共感的態度に影響しており、患者満足の向上につながることを示唆された。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字程度)
2. ※印の欄には記入しないこと。